

「公共交通で実現する暮らしやすい未来」について

■全体

路線バス、タクシー、コミュニティバスなどが一体となって、公共交通に取り組むことはいいこと。既存のマイカーでの自動車交通（免許返納）との比較の中でのあり方。松山では、自動車販売会社が交通をトータルに考えて提供など。

1. デジタル化、DXによる効率化

- ・デマンド交通（ファーストワンマイル対策、バス停までの移動）
- ・乗り継ぎ（認証）割引

※自動運転には時間がかかる。利用者への費用以外のメリットは？

2. 乗り継ぎ環境の整備（モビリティハブ）

- ・複数交通手段の結節点
- ・単なる屋根付き、ベンチではなく、活動拠点の役割（公民館、図書館）
- ・スマートフォン等で時間を過ごし（つぶし）方の変化。

⇒今後の拠点の見本となるようなものがあるとよい

3. 暮らしやすい公共交通（賑わい創出）

- ・買物、医療、通勤だけでない交通

⇒インターネットでの買物、遠隔医療、在宅勤務、むしろ改善していく。

- ・暮らすための需要とは？住民のまちなかでの生活のあり方とセットでの提案。

⇒新市役所/一畑百貨店跡地/大橋川改良での水辺空間の活用と、公共交通を活用した関連づけ

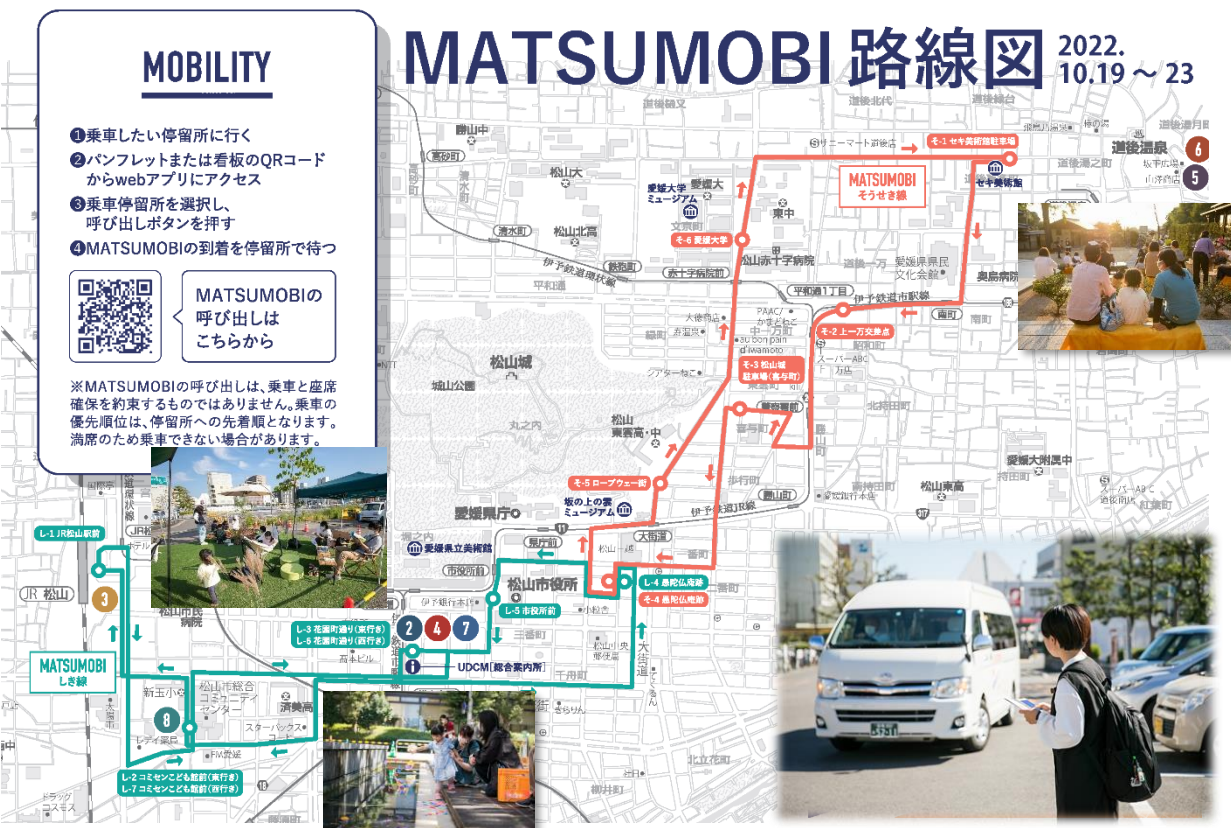
4. データの活用（スマートシティ）

- ・データ共通基盤を作って、データを共有したらうまくいく？
- ・利用した結果の可視化、見える化まではできる。

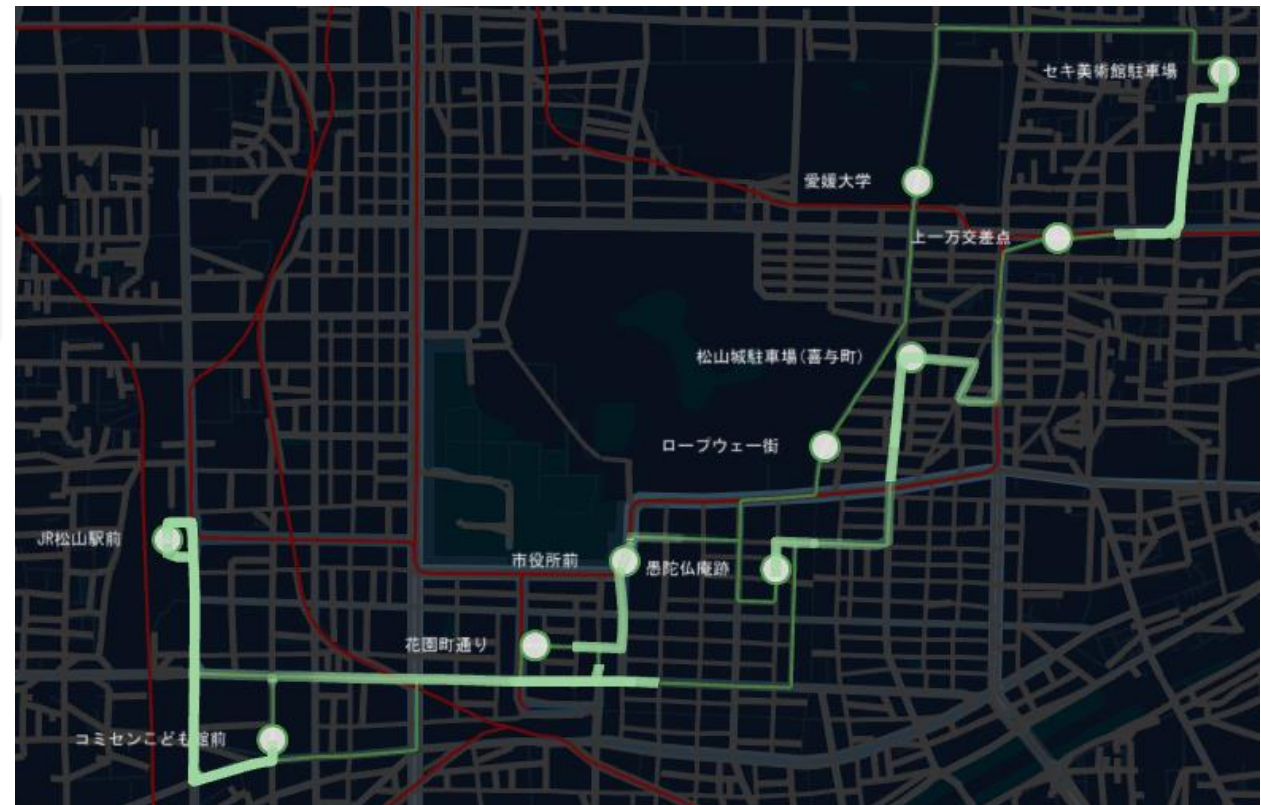
⇒課題の抽出とセットで、具体的な施策の提案までが必要

都市回遊型社会実験の実施

- ①次世代モビリティサービスの導入に向けた車両運行実験
- ②スクール事業のイベントと連携することで市民のアクティビティの創出
- ③プローブパーソン調査：スマートフォンアプリによる移動/活動データの収集
- ④モビリティサービスの運行形態の検討のためのミクロなシミュレーションの実施

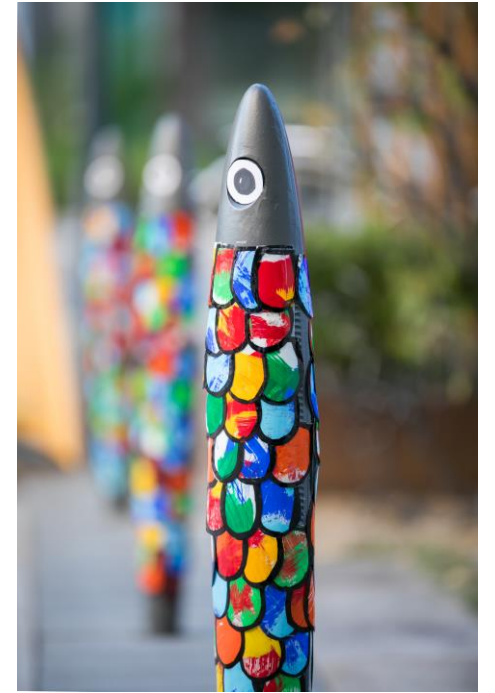


都市回遊型社会実験の運行路線と乗降場所、イベントの開催



サービス検討に向けたシミュレーション

花園町通り | 屋外街路（公共空間）の利活用



2023/06/25 信子お婆さんの伊予弁紙芝居



2023/10/29 Fish Shoes Flower WORKSHOP



花園町通り | 地元主催イベントへの協力

7/29
まつやま花園ビアフェスタ



担い手育成

- 大学生を中心とした若者を、まちづくりの担い手として注目
- 実践プログラム①②を通じた担い手を育成

①もぶるラウンジ運営アルバイト 79名(男25名、女54名) ※2024年3月時点

②実践型まちづくり講座「UDSCスクール松山」 延べ220名受講

※2023年7月時点



学生スタッフが作成した
小冊子 (2021-2022)



もぶるラウンジ運営に関わる学生スタッフ
(2023年度)



学生スタッフによるラウンジ企画 (2024/3)



UDSCスクール松山2023 | 活動プラン実施

UDSCスクール活動プランの実施を都市回遊型社会実験『urban design week.』として開催



くめはぶ・ええとこじゃろミュージアム
～いまむかし 今出の絣 垣生めぐり～



urban design week.



くめはぶ・ええとこじゃろミュージアム
～昭和の東温泉郷をめぐる～



ココきて！らくがき ココどこ？まち探検



跳んで！歩いて！
大手前通りミュージアム



まつやま歴史まちあるき
(くるりん編)